

ミニ腹腔鏡手術と体外受精

ミニ腹腔鏡手術は小さな病巣や不妊症検索などを対象にした手術で、通常の腹腔鏡手術よりもさらに小さなキズで行えることが特徴です。

不妊症に悩む多くのカップルでは、早く結果を出したい気持ちと、一方で出来るだけ自然妊娠も望んでいます。しかしながらいたずらに時間が経過するのが現状で、最終手段である体外受精へも簡単には入り込めません。少しでも自然妊娠の可能性を高めるため、さらにこれが難しい時はやはり体外受精へと進めるきっかけにする治療としてミニ腹腔鏡手術は位置づけられるものと考えています。

ミニ腹腔鏡手術と通常の腹腔鏡手術の比較：

	ミニ腹腔鏡	一般的腹腔鏡	当院での腹腔鏡
スコープの直径	3mm 直径	10mm 直径	5mm 直径
トロカー(数)	3~4 本	3~4 本	3~4 本
主なトロカー(太さ)	3mm	5mm	5mm
最大トロカー	5mm(1 本)	12-15mm	12mm(30mm)

スコープ : 腹腔内(お腹の中)を見るカメラレンズ(胃カメラの様なもの)

トロカー : 手術操作に使用する鉗子(マジックハンド)を出し入れするための筒

ミニ腹腔鏡手術では使用するスコープおよび鉗子も小さいため適応は限定されます。多嚢胞性卵巣症候群(PCO様も含めて)に対するドリリング手術、骨盤腔に分散している子宮内膜症性病変に対する電気焼灼術、原因不明不妊症例に対する大量卵管通水法や骨盤腔内洗浄などが対象となります。

これらの処置は妊娠成立に対して非常に有効なことがあり、自然妊娠を望む症例には積極的に試みる意味のある治療です。

そして3mmのスコープおよびトロカーの実際のキズは4mm程度で、一般的な腹腔鏡に比較して術後の傷跡も非常に目立たないし痛みも少ないです。

ここまでのことを行っても妊娠に至らない場合には、体外受精の治療に進むことへの検討が必要で、この決断にもミニ腹腔鏡手術は役立つと考えられます。